

関西月例会への意見・要望

意見・要望(2019年実施)		
成果物の提供と普及	説明会・勉強会の開催	東京、大阪以外の地域に向いて(例えば、広島や福岡など関西より西側)付近の企業に呼び掛けて説明会を行なう。(中災防などのコラボレーションは必要) 日本国内の現場中心に安全(Low-Level)への活動布教を目指すのであれば、例えば東大阪の工業団地付近(東京では大田区や川崎の・・・と言いました)で安全要求仕様書などの成果物を配布する目的の勉強会や、企業訪問を計画実施する。 恐らくこの企業様も“人手不足”が大きな問題であり、海外からの労働者受け入れを検討されており、海外の労働者を受け入れた際の“安全確保”の整備が急務であると思われます。 ベトナム、タイ、ラオス、ミャンマーあたりの人を使われているケースが多いようです。
	わかりやすい宣伝物の作成	安全確認型やしくみの安全に特化したデモ機作成→説明会・勉強会で使用
関西月例会の運営方法	開催日・開催方式	現状、毎月決まった時間に参加することが現場の現役世代では難しいです。(業務ではないため、優先すべき事項があれば、優先度は下がってしまいます。) →開催日のフレキシブル化
		web会議化を要望します。例えば12ヶ月のうち2回はFace to Faceとして、残りの回はweb参加可能な形態にする。(活動しやすくなる)
		東京月例会と同日に設定してテレビ会議で行う 最低限議事録と当日配布資料を事前に入手できるよう関西月例会の開催日を充分余裕をも開催日よりテーマの系統を分ける(例えば、設計向けの会、労働安全担当向けの会等) 初級レベルの会を設定する。(初参加の人が参加しやすいように)
	情報の蓄積	クラウドベースの活動。同じ時間に人が集まらなくともInputが溜まり続ける仕組み。
取組みたいテーマ	教育・スキルアップ	安全技術者のスキルアップについて 最新技術情報等の収集方法・共有化・教育について
	成果物の改訂	SOSTAP普及会のテキスト改訂 日本以外の地域への布教目的のため、外国語大学や専門学校に働きかけ、上記国から日本の現場で働いている方に来ていただき、その国の文化に合わせた資料の作成や教育方法を聞きだし、資料の作成に協力頂く。
	安全仕様要求書の改訂	上司に下記のように追及され困る ・300人以下の中小企業のユーザで本当にこんなもの書けるのか。 ・社内もサプライヤーにも規格と安全要求仕様書の教育をしなければならない。 十分な資源が確保できないのどのようによろしく考えているのか? 内容が自社には適切でない(高度すぎる) ・ユーザー企業ではなく学術者を対象としたものだ ・わが社には適用しにくい(わが社にすぐに適応できるものでないと役に立たない)
	協働ロボット	・機械設計者は、協働ロボットとビジョンカメラを購入し、安全性を機器メーカーの営業担当者に確認しただけで周辺システムも含めて自社設計しようとしている。 ・本設計者はロボットの講習会を受けた(のみの)安全担当者に相談を持ちかけ「カテゴリー4になるようにしたい」「RAよりもカテゴリー4になるためには、このようにしたら良いと言うサンプルが欲しい」「答えを教えてください。簡単に、すぐに出来るように」といっている。
	RAシステム	日本ハイソフトより、中央労働災害防止協会のコンサルティングを受け 自社で作成したというRA構築のソフトが売り出されている。 これについてどう思うか <a href="https://www.jhsc.co.jp/package/risk/risk.html">https://www.jhsc.co.jp/package/risk/risk.html</a>
	工場見学	特に具体的な会社はありませんが、食品や日用品を生産されている工場 安全に対する取り組みや、実際起きた災害事例などを知れる機会があれば大変嬉しく思います。 弊社でも目の当たりにするところですが、営業担当者からの情報があまりなく、実際の現場を見聞したいと思います。  別の研究会で住友電工さん(伊丹事業所)へお邪魔したのですが、リスクの体感機器が沢山あって 皆さんで見学させてもらえたら良いなと思いました。
		開催日のアンケート実施した結果、 金曜日の回答が多かったので、 現状の通り、金曜日としている。 テスト運営中。 今年4月の運営開始後、 合計13名がWEB会議で参加。
		工場見学は、徐々に実施中。